

2025年5月期 第2四半期 決算説明資料

2025年1月



 **室町ケミカル株式会社**
(東証スタンダード 証券コード：4885)

1. 会社概要

2. 2025年5月期第2四半期 決算概要

3. 取り組み状況・トピックス

4. 業績予想

5. 中期経営計画の進捗状況

6. 参考資料

会社概要



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立: 1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	205名 (パート・臨時従業員を除く) 2024年5月末現在

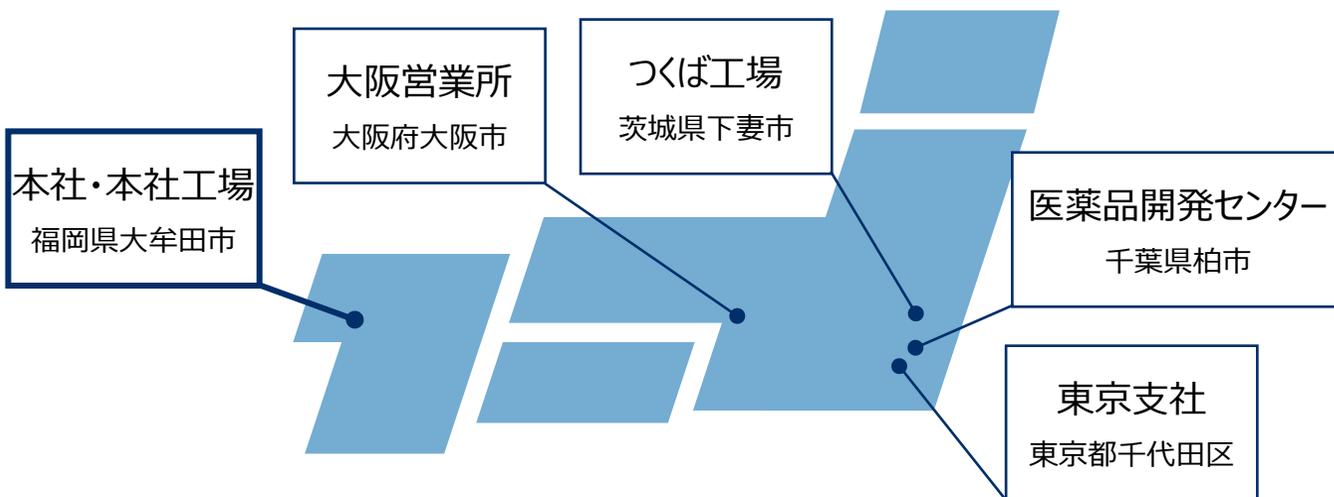


創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

< 拠点 >



「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の製造・販売



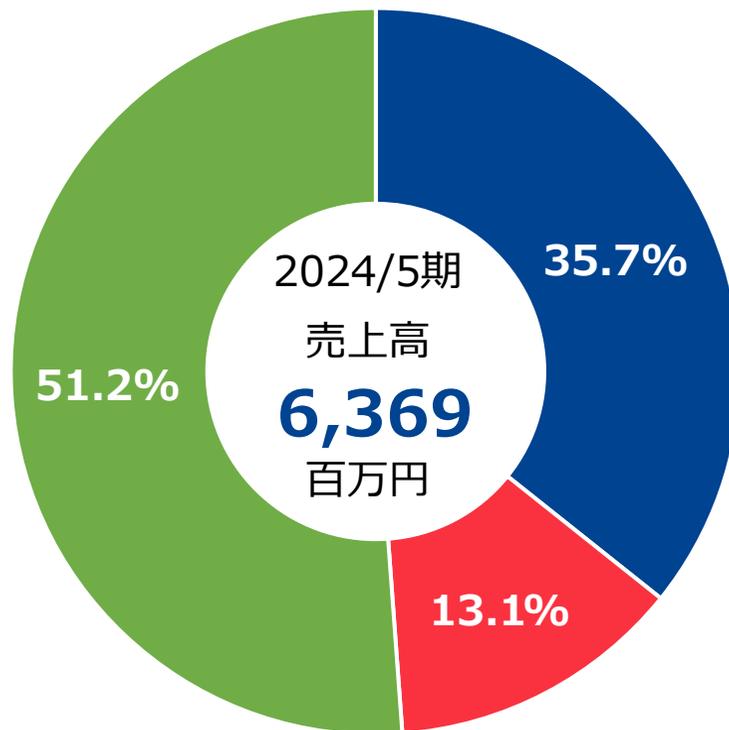
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により生きがいと豊かさを提供し、
健全な発展を通して社会に貢献する経営を目指します。

2025年5月期第2四半期 決算概要



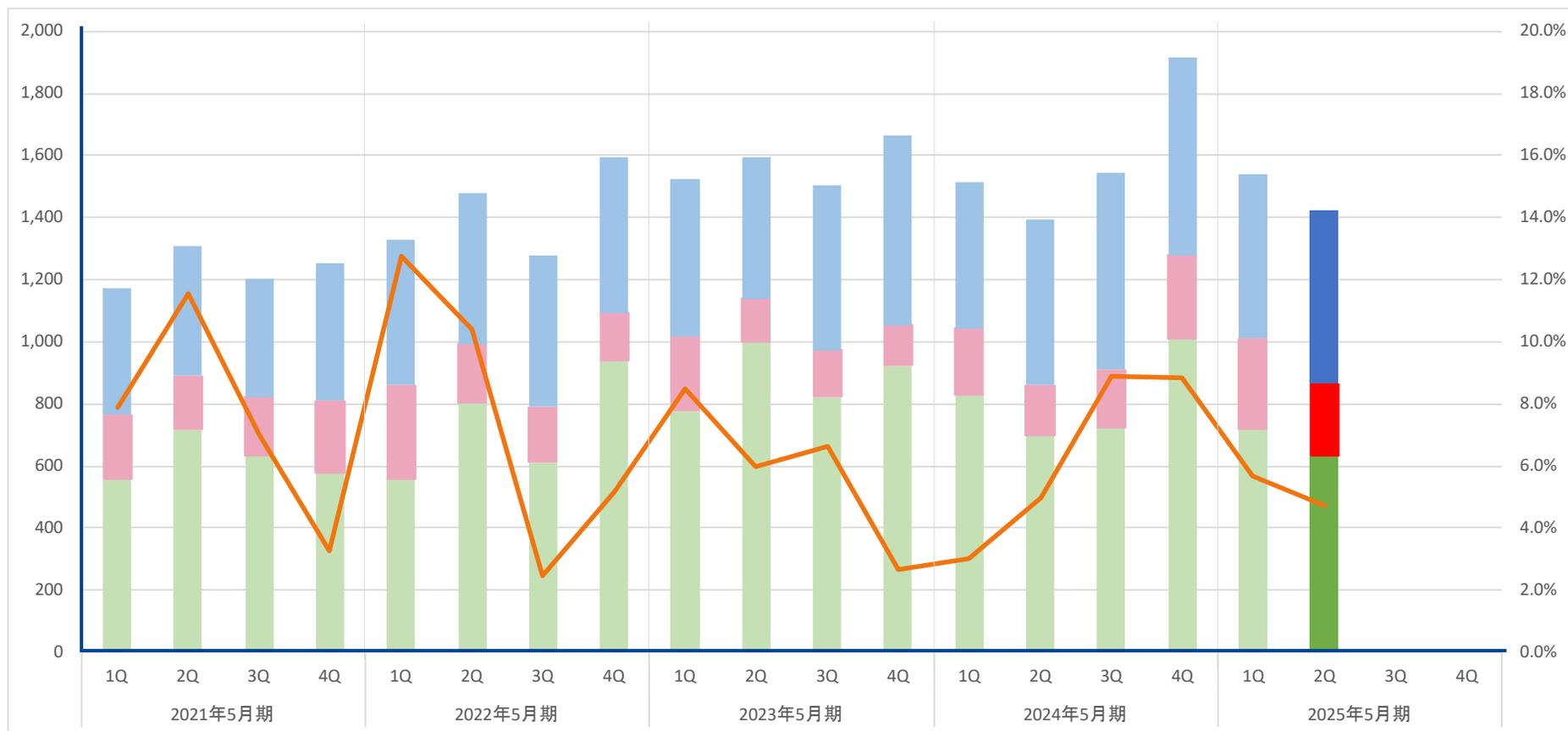
- 売上高は前年同期よりやや増加し、概ね期初の想定どおりの進捗
- 工場稼働率向上・販売価格の見直し・一時的な在庫増加等により原価率が改善し、売上総利益が増加
- 販売費及び一般管理費は、開発部門経費を中心にやや増加

(百万円)

	2024/5期 第2四半期		2025/5期 第2四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	2,912	100.0%	2,965	100.0%	53	1.8%
売上原価	2,084	71.6%	2,075	70.0%	△9	△0.4%
売上総利益	828	28.4%	889	30.0%	61	7.4%
販売費及び 一般管理費	712	24.5%	734	24.8%	22	3.1%
営業利益	115	4.0%	154	5.2%	39	34.0%
経常利益	110	3.8%	171	5.8%	61	55.5%
当期純利益	93	3.2%	120	4.1%	27	29.5%

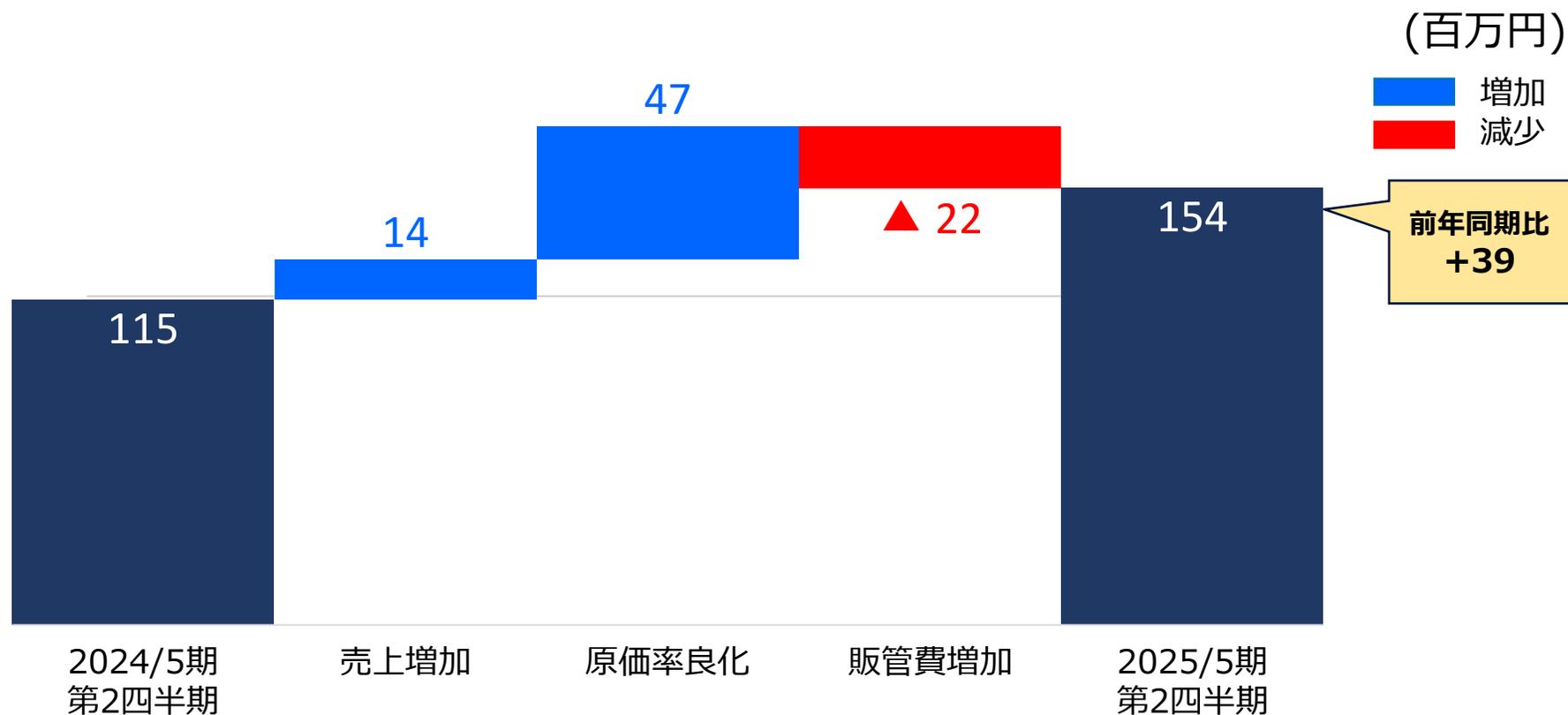
売上(百万円)

営業利益率

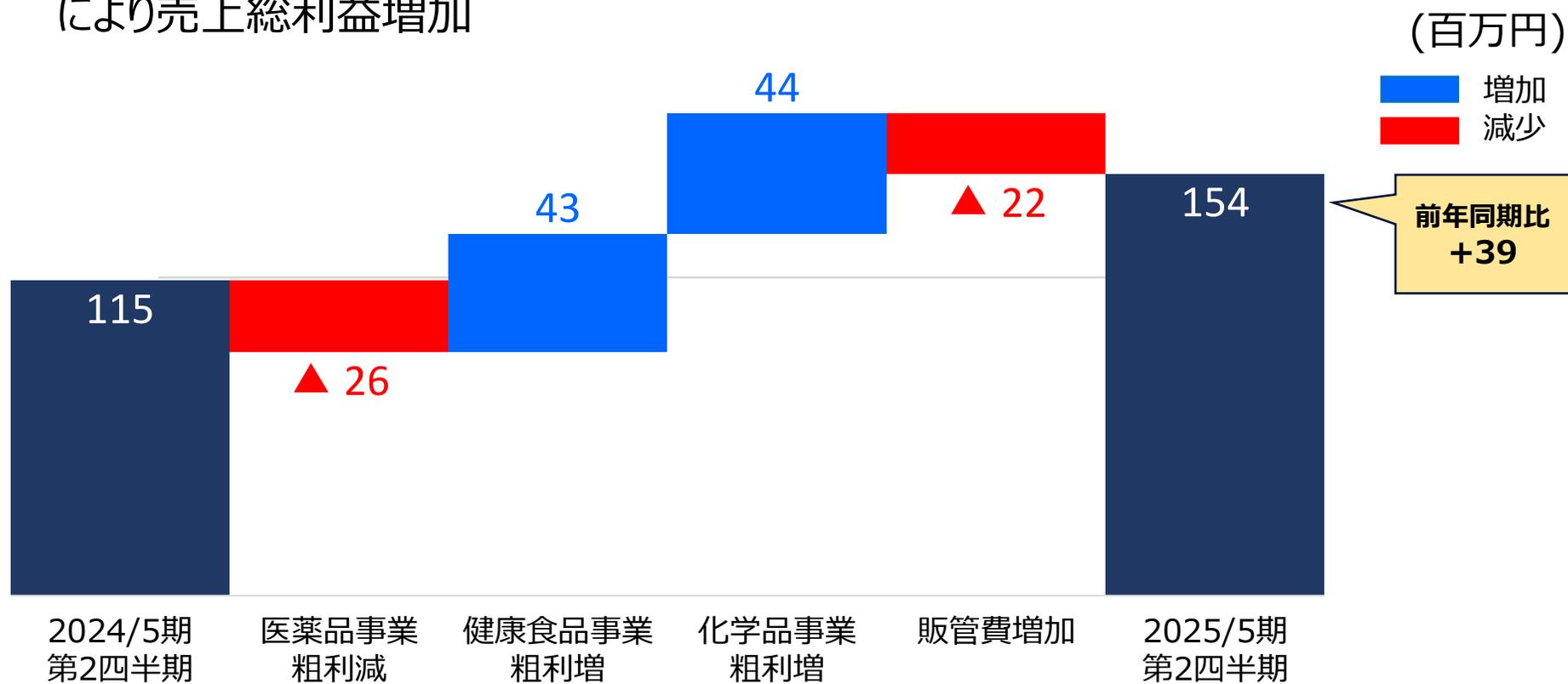


■ 医薬品
 ■ 健康食品
 ■ 化学品
 ■ 営業利益率

- 健康食品事業および化学品事業で売上が増加
- 工場稼働率向上・販売価格の見直し・在庫増加等により原価率が改善し、売上総利益が増加
- 販売費及び一般管理費は、開発部門経費を中心にやや増加

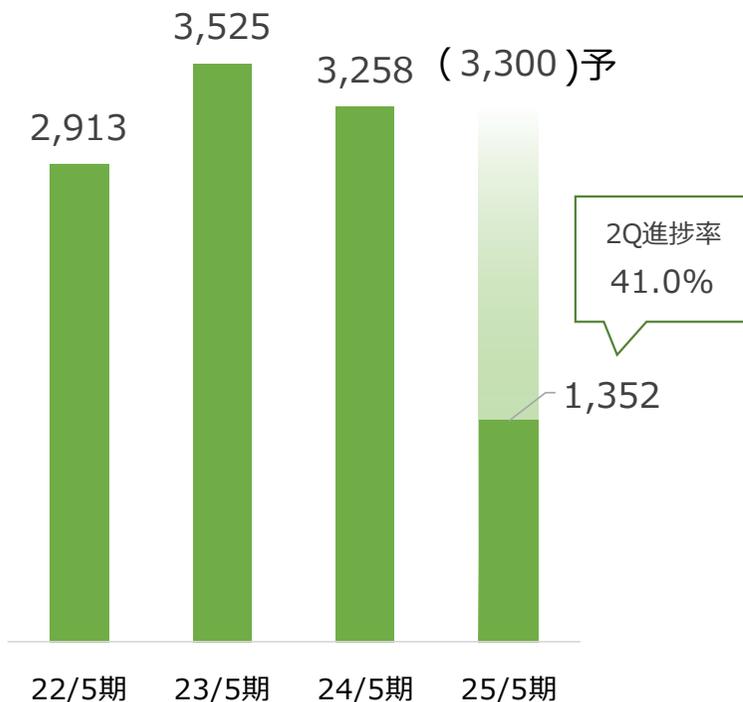


- 医薬品事業は、在庫増加に伴い原価率改善も売上減少により売上総利益減少
- 健康食品事業は、売上増加に加え工場稼働率向上等による原価率改善により売上総利益増加
- 化学品事業は、売上増加に加え主に製造体制見直しの効果による原価率改善により売上総利益増加



売上高	(前年同期比)	営業利益	(前年同期比)
1,352百万円	(88.7%)	166百万円	(84.0%)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



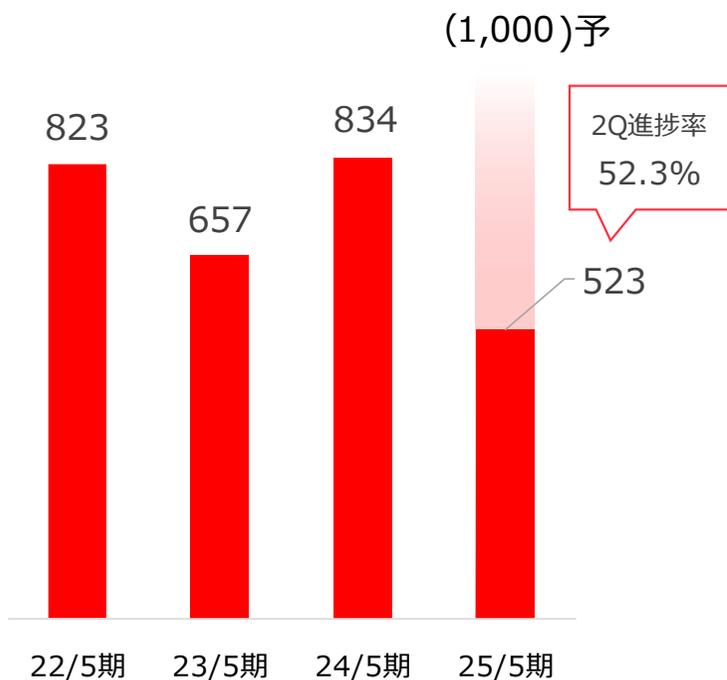
- 輸入原薬は、複数の新規取扱品目の納入を遂げるも、主力の抗てんかん薬用原薬の競争激化の影響で売上減少
- 円安へ対応した価格設定が進んだことや工場稼働率の向上に加え、在庫増加により原価率が改善したものの、売上総利益は減少
- 2024年5月の開発センター移転に伴う費用等により開発費が増加
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の獲得および速やかな立上げに尽力する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



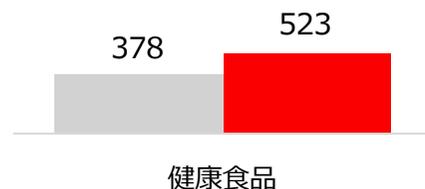
売上高	(前年同期比)	営業利益	(前年同期実績)
523百万円	(138.2%)	5百万円	(▲ 27百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



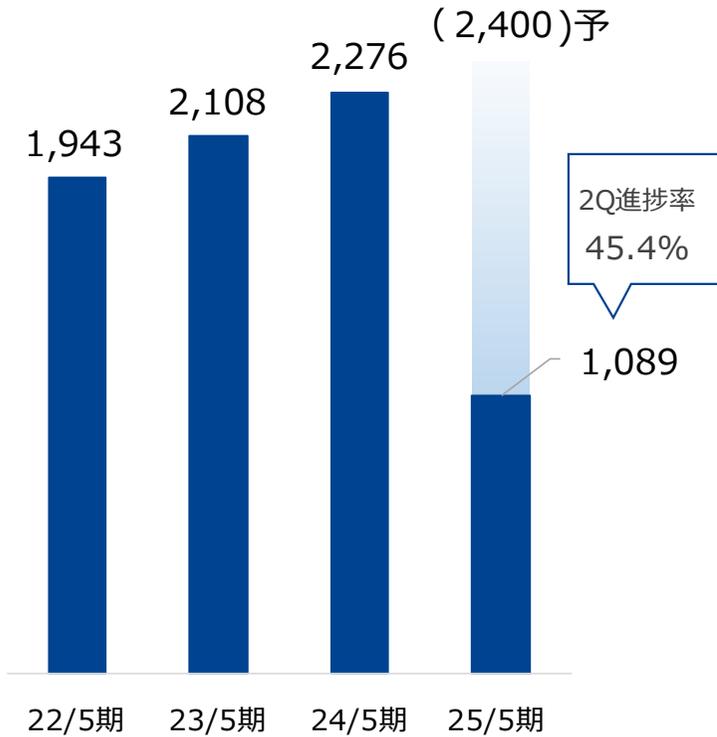
- 前期3Qに上市した大型OEM品が引き続き売上をけん引
- 前期中の工場稼働率改善や販売価格の見直しを反映して、原価率が改善
- 開発力強化に向けた人員拡充により開発費が増加
- 更なる製造原価低減策を継続するとともに、手元にある開発案件を早期に受注し売上拡大に繋げる

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



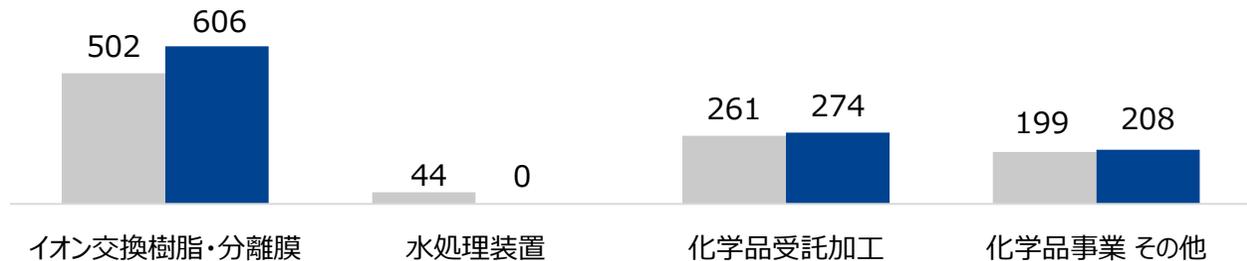
売上高	(前年同期比)	営業損失	(前年同期実績)
1,089百万円	(108.0%)	▲ 17百万円	(▲ 55百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)

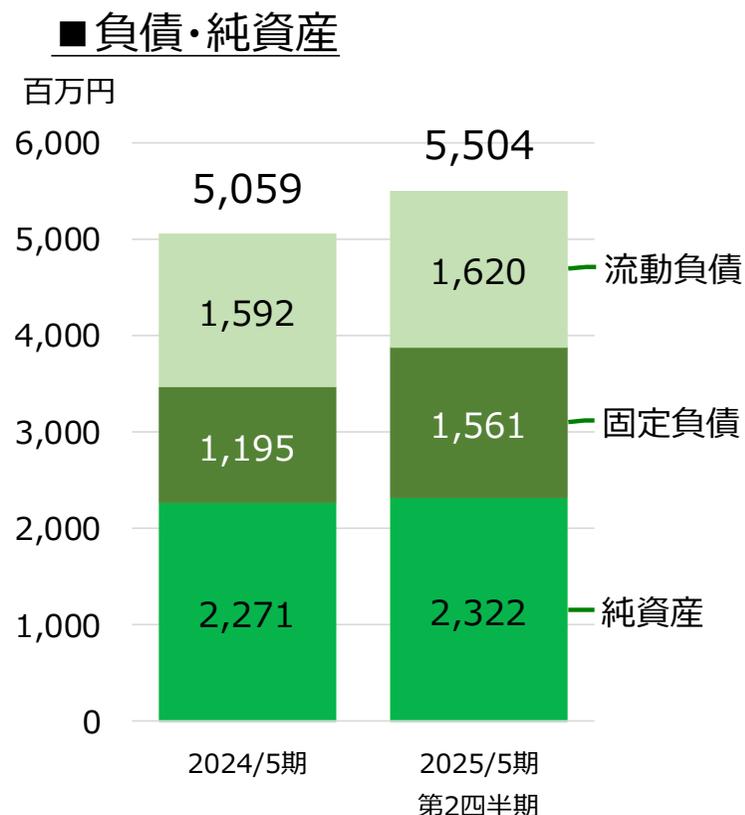
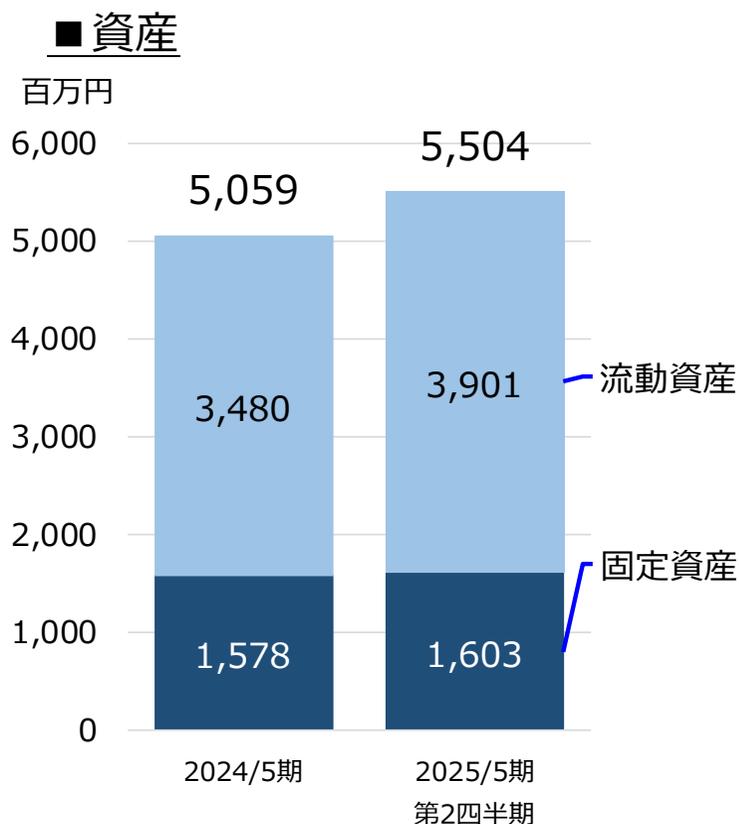


- 主力のイオン交換樹脂は、仕入販売品を中心として販売が増加し、大幅に増収
- 今期中の水処理装置の販売は当初の予定どおり
- 高機能イオン交換樹脂を推進力とした未開拓の業界への進出や、PFAS問題等の新たな課題を見据えて、営業・開発体制を拡充
- 顧客の抱える課題の聞き取りや当社の持つ技術をアピールするため、展示会出展や学会での講演・発表等を積極展開中

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)

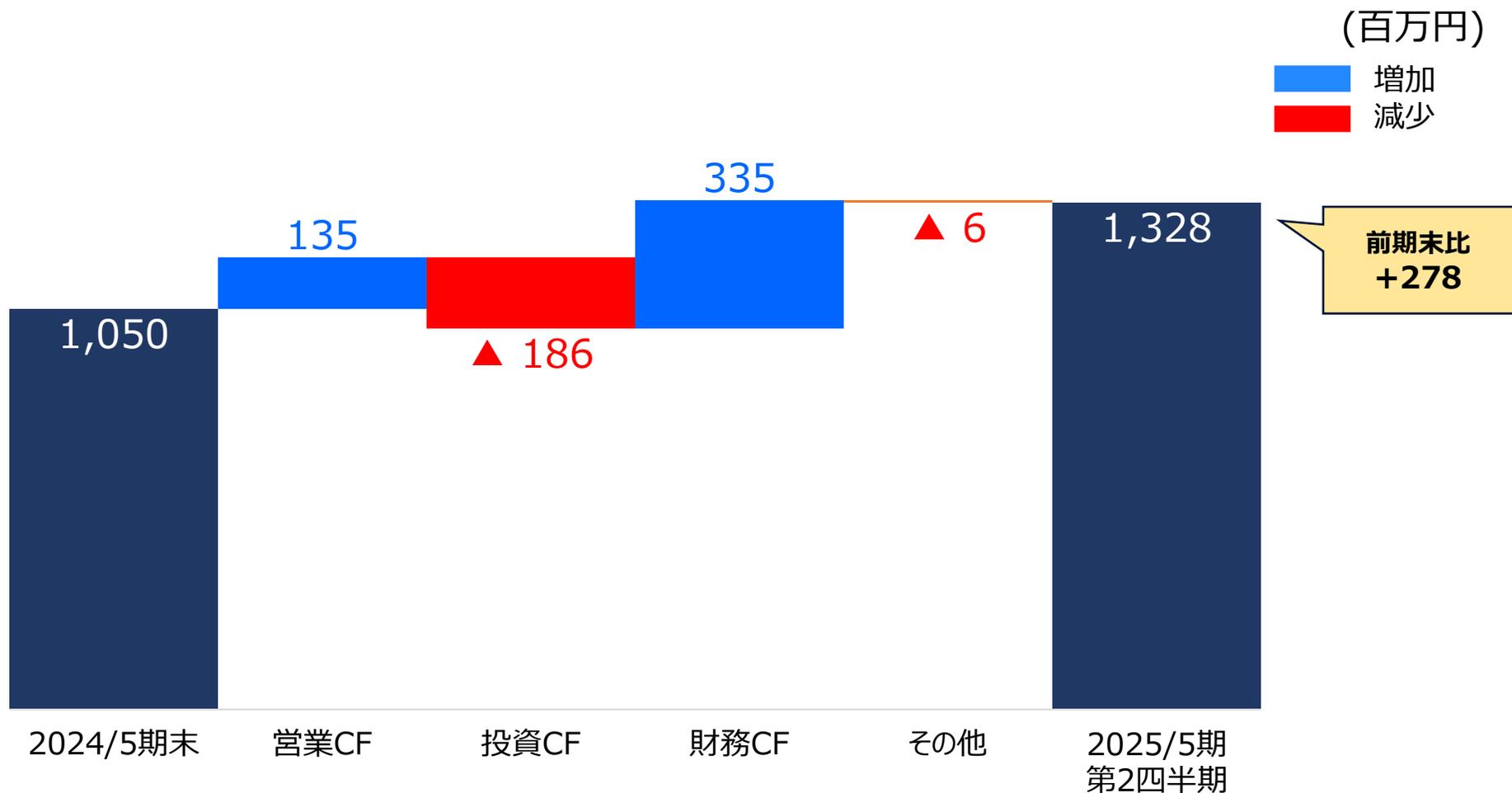


- 仕入・製造と販売のタイミングにより、製・商品在庫が増加
- 資金需要に応じた長期借入金の調達



自己資本比率 : 42.2% (前期末比 ▲2.7pt)

- 医薬品開発センターの移転に伴う設備投資等を実施



取り組み状況・トピックス



PFASへの対応

2026年4月を目途に、PFASの基準値が「暫定目標」から「水質基準」に格上げされ、水道事業者に対して検査義務が課される見込みです。

この問題に当社の技術を役立てるべく、以下の取り組みを進めています。

モニタリング

各家庭へ提供される飲用水や工場等からの排水中のPFASを定期的にモニターする

簡便な分析方法を確立し、検査にかかる**コスト削減**と**時間短縮**を目指す
(東京学芸大学との共同研究進行中)

除去

PFOS・PFOAを中心とした幅広いPFASを確実に除去する

PFAS除去に有効なイオン交換樹脂を**複数ラインアップ**で販売開始

イオン交換樹脂は**活性炭**と比べて

- ・単位面積当たりの**吸着容量が大きい** (5~10倍)
- ・吸着したPFASが**外れにくい**
- ・長鎖から短鎖まで**幅広いPFAS**に対応できる

安心・安全な水

サステナビリティ

PFAS吸着用イオン交換樹脂の**再生に関する基礎技術を確立**

出来るだけ環境に負荷をかけない方法で除去を行う

Kd値測定結果(単位:L/g, 室温)

	WMT-718B	TP108 DW	活性炭
PFBA	>1000	>1000	320
PFOA	760	410	180
PFDoDA	>1000	>1000	>1000
PFHxS	>1000	>1000	630
PFOS	>1000	>1000	850

ライフ試験(WMT-718B)の結果



※当社製品パンフレットより抜粋

医薬品事業

複数の新たな輸入原薬を納入開始

- ・大手後発薬メーカー向けに胃腸薬用原薬の納入を開始（ピーク時売上見込：1億円/年）
- ・当期においては、上記以外にも新たな輸入原薬の納入を達成
- ・每期、着実に採用品目を積み上げ、少数の主力品に頼らない製品構成の構築を進める



健康食品事業

新剤型 取扱い商品の拡大

- ・協力会社とのコラボレーションにより、ゼリー製剤に加えて錠剤・カプセルなど様々な剤型に対応できる体制を構築。顧客の要望に沿った提案で、売上の伸長を目指す。
- ・HP特設サイトをリニューアルし、見込客の獲得活動を推進中

※ヘルスケア事業部HP：<https://muro-chem-chc.com/products/>



化学品事業

高架橋度イオン交換樹脂 電力業界への進出状況

- ・当期において更に2つの発電所での「高架橋度イオン交換樹脂」採用が決定
- ・イオン交換樹脂の最大市場である電力業界において、今までの採用実績を武器に全国の発電所への拡販と他用途への適応拡大を進める

（ピーク時売上目標：4億円/年）



業績予想



- 営業利益・経常利益については、当初の計画を上回る水準で推移中
- 3Q以降の売上予定品目や費用の使用見込みを加味して、業績予想は据え置き

2025年5月期通期

業績予想の修正： 無し

		前期比
売上高	6,700百万円	105.2%
営業利益	450百万円	106.7%
経常利益	430百万円	100.4%
当期純利益	300百万円	90.9%
配当金	25.0円	
配当性向	33.3%	

中期経営計画の進捗状況



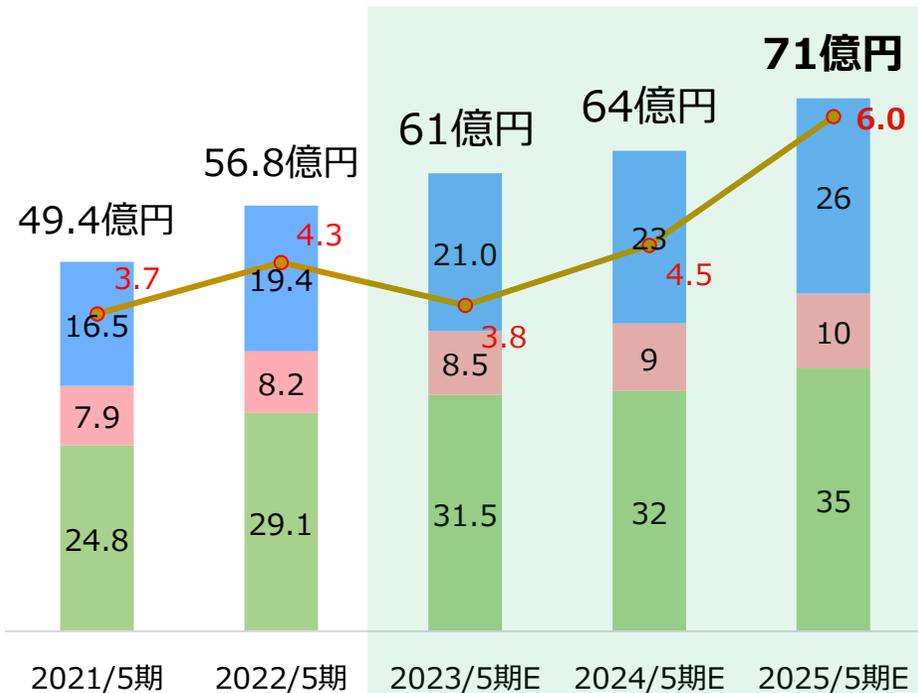
売上高：71億円
 （対FY22：+25.0%）

営業利益：6億円
 （対FY22：+37.2%）

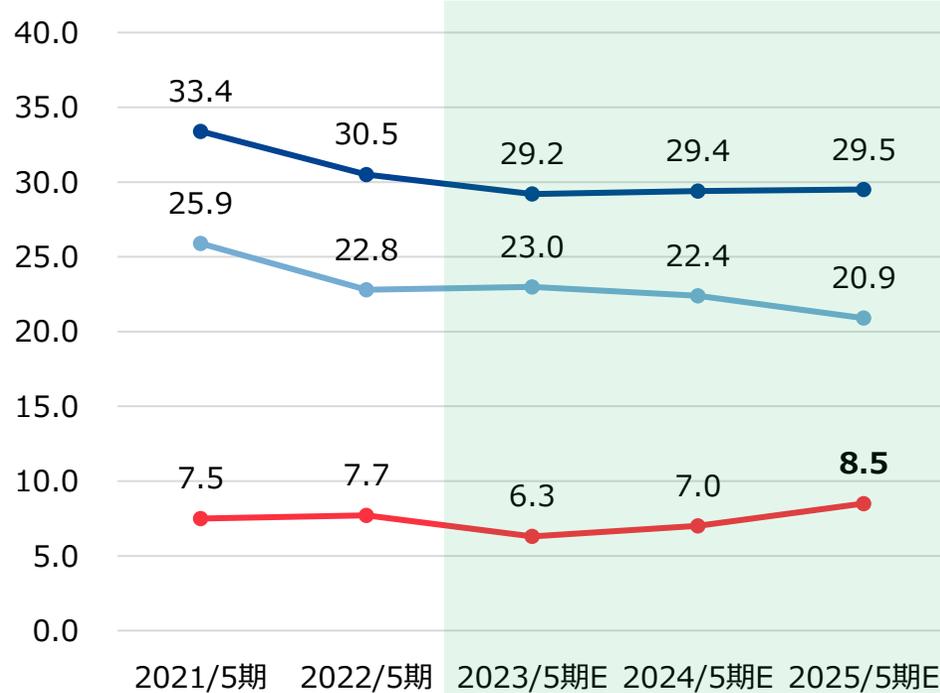
営業利益率：8.5%
 （対FY22：+0.8P）

売上総利益率を維持しつつ、売上を伸ばすことで、営業利益増加を図る。

売上高・営業利益 計画（単位：億円）



各利益率 計画（単位：%）



■ 医薬品 売上高 ■ 健康食品 売上高 ■ 化学品 売上高 ● 営業利益

● 売上総利益率 ● 販管費率 ● 営業利益率

（医薬品）

- 輸入原薬の**横展開によるシェア拡大**
- **特異技術**による自社新製品の立上げ
- 治験薬の受託合成による**新薬開発サポート**
- 多拠点(欧州～東アジア)からの**調達ネットワーク構築**
- 新規海外調達先の**日本品質基準への対応サポート**

（化学品）

- 海外イオン交換樹脂メーカーとの**共同開発品の拡販**
 - 火力・原発向け**高架橋度イオン交換樹脂**
 - 半導体関連向け**高純度イオン交換樹脂**
- **競合の少ない特殊な液体処理**でのニーズ取込み

（健康食品）

- **通販業者向けODM製品**の拡販
- **原材料メーカーとの協業**による顧客獲得
- **機能性表示に対応**した製品の企画・提案
- **高齢者向け製品**への応用加速
- 容量増に対応できる『**Tパウチ・ショット**』の拡販

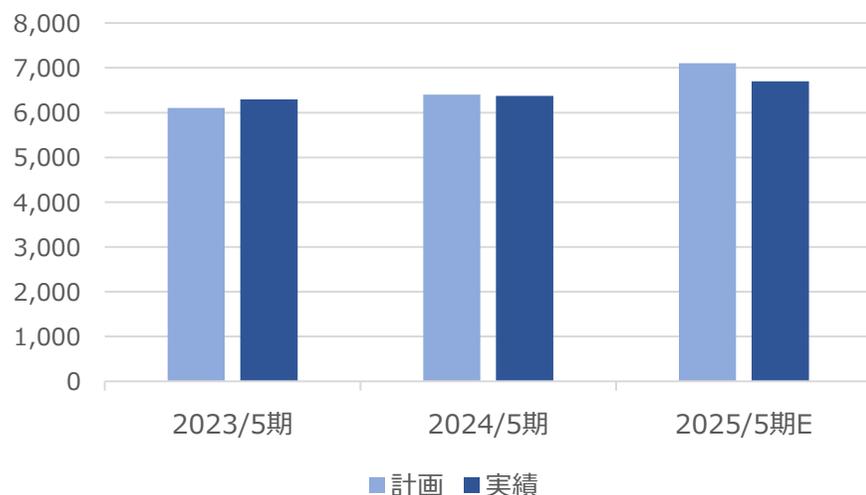
（生産・品質・管理）

- 効率的な工場運営
 - 新規開発案件立ち上げに伴う製造ラインの最適化
 - 生産量増加に伴うインフラ及び物流戦略の再構築
 - 原価低減の取り組み
- 法令遵守体制の継続
- 抜け漏れのない品質管理体制の維持・強化
- より強固な文書管理体制の構築
- 人材の育成、職場環境の改善、従業員満足度の向上

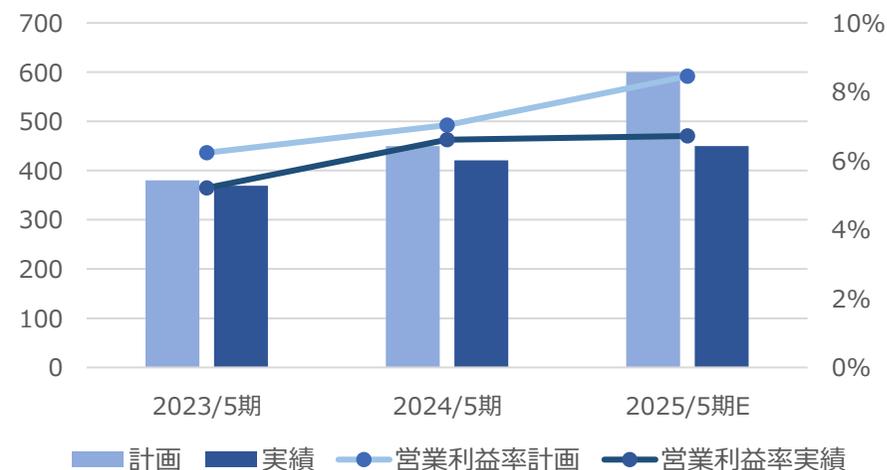
(百万円)

	2023/5期		2024/5期		2025/5期	
	計画	実績	計画	実績	計画	業績予測
売上高	6,100	6,291	6,400	6,369	7,100	6,700
営業利益	380	369	450	421	600	450
営業利益率	6.2%	5.2%	7.0%	6.6%	8.5%	6.7%

売上高

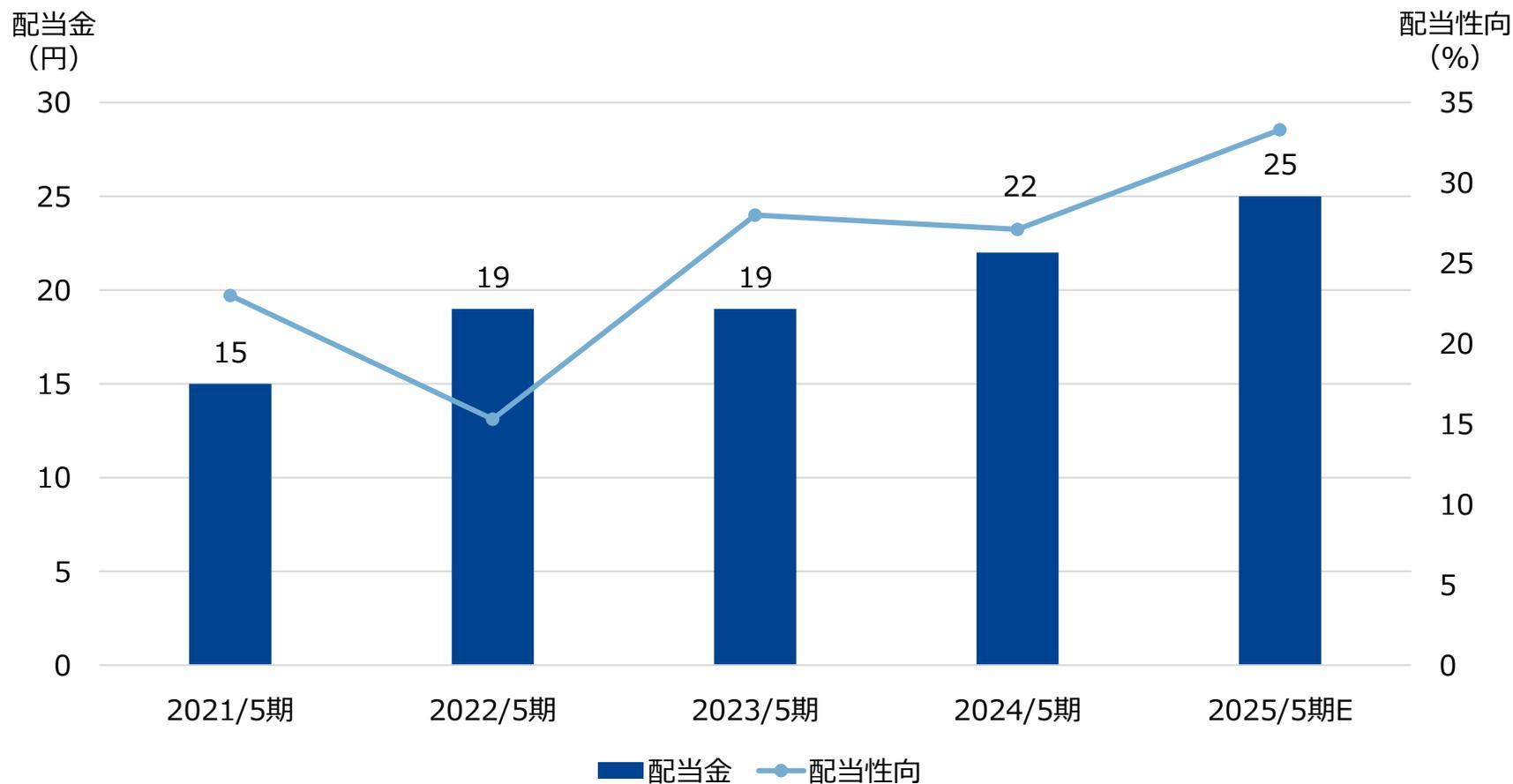


営業利益



安定配当を基本

～配当性向20%以上を目標に業績に応じた安定的な配当方針～



参考資料



明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖 室町(上海)商貿有限公司を清算

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

2024年 埼玉開発センターを千葉県柏市に移転し、医薬品開発センターと改称

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

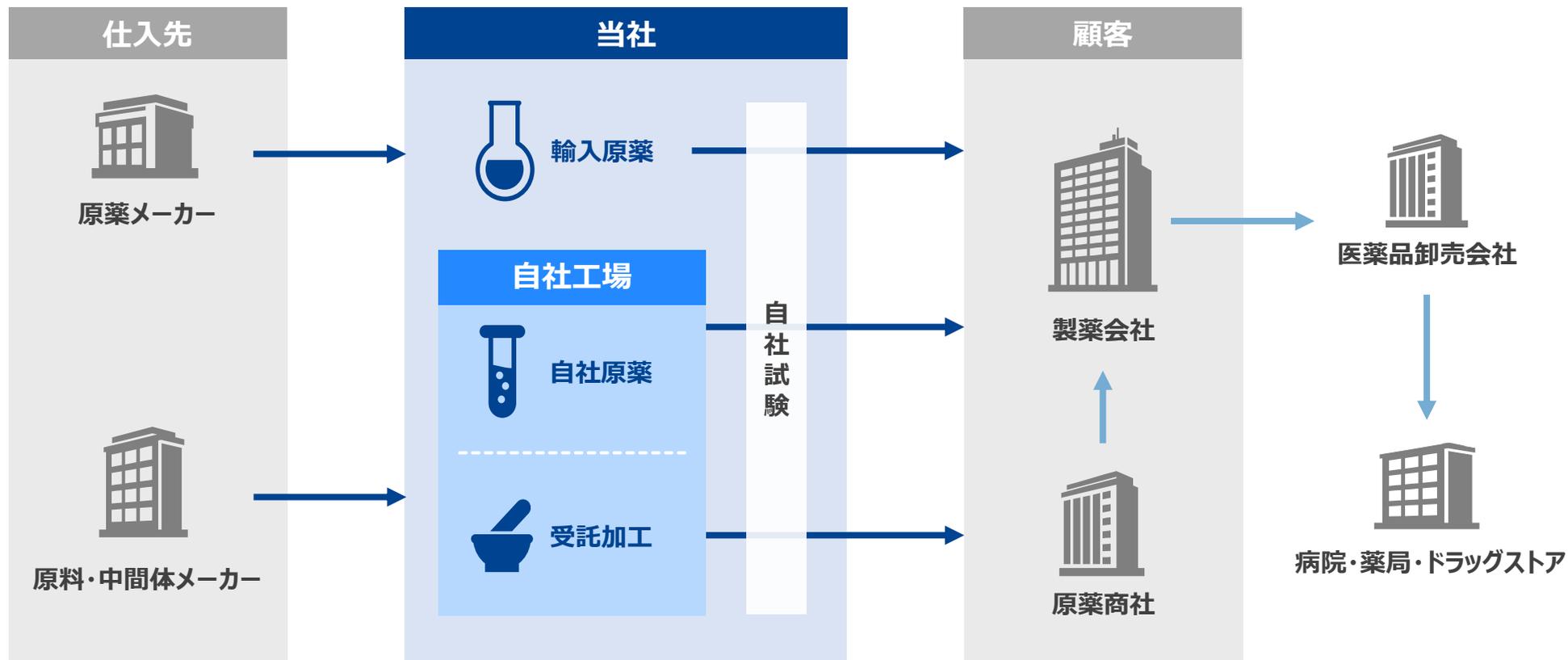
健康・美容成分には食べづらい味や匂いものもありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品* (ジェネリック医薬品*) 向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

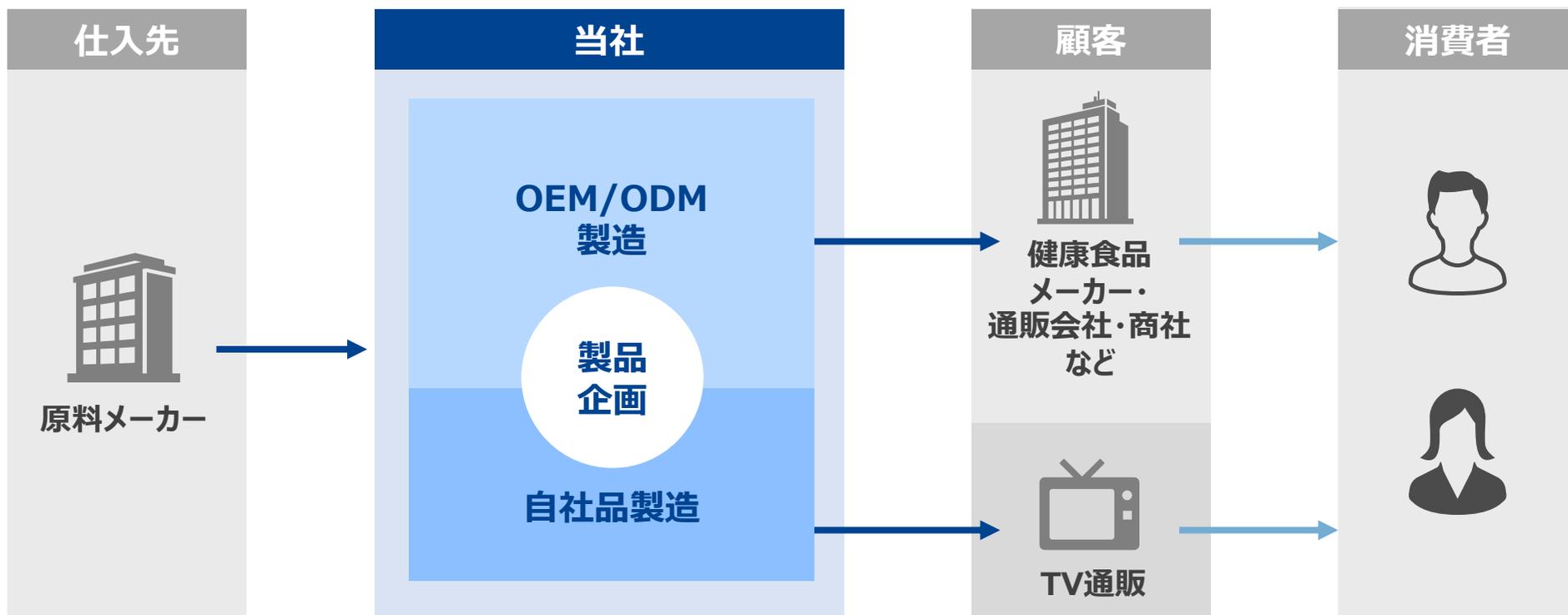
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



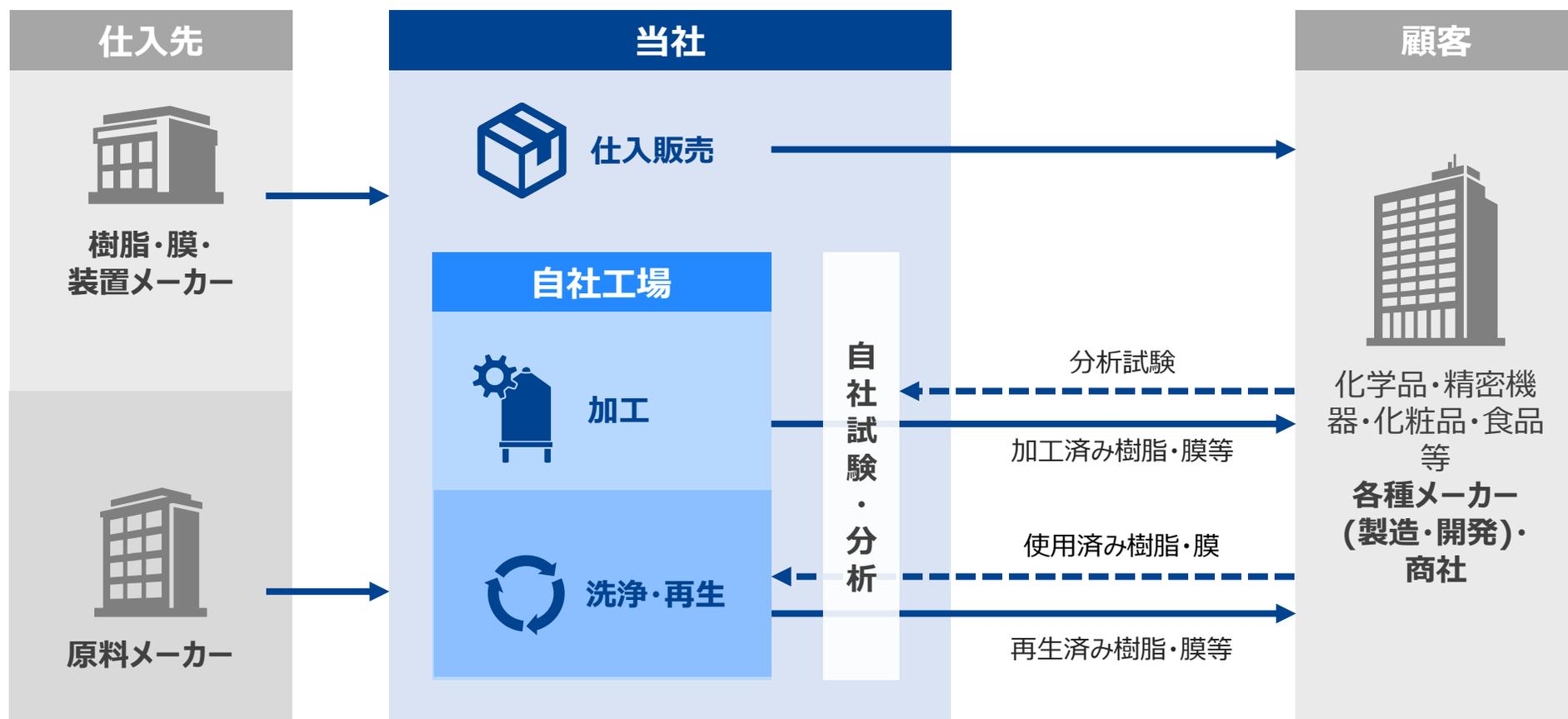
* ODM (Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。



∞ ひろがる、ケミカル。

 室町ケミカル株式会社

(東証スタンダード 証券コード：4885)

<https://www.muro-chem.co.jp/>

〈本資料に関するお問い合わせ先〉

室町ケミカル株式会社 経営企画室

E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

〈本資料取扱上の注意点〉

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。